

アビタックス+FOLFIRI【大腸】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		ポラミン注	副作用（アレルギー）を予防するお薬です。
2		デキサト注射液	副作用（吐き気）を予防するお薬です。
3		アビタックス注射液	治療の為のお薬です。 1週間に1回投与します。
4		アネカ静注	副作用(吐き気)を予防するお薬です。
5		レボレチート注	フルオウラシル注の効果を高める為に使用します。 約2時間かけて点滴します。
6		リリカ塩酸塩点滴静注	治療の為のお薬です。レボレチート注と同時に2時間かけて点滴します。
7		フルオウラシル注	治療の為のお薬です。リリカ注終了後に3分間かけて注射します。
8		フルオウラシル注	治療の為のお薬です。この器具の中にお薬を入れて、少しずつお薬が入っていくように設定します。 約46時間かけて点滴します。

アビタックス+フォルフィリ療法【大腸】

よく起こる副作用

★皮膚症状（皮膚の乾燥・炎症など）

発生時期 アビタックス投与から3週間以内。

症状 にきびのような発疹ができることがあります。
皮膚が乾燥することがあります。
皮膚にひび割れができることがあります。

対処法 ○アビタックス治療を行っている間は、皮膚症状を予防するために、保湿効果の高いクリームなどを使って皮膚の乾燥を防ぎましょう。
○直射日光をさけたり、日焼け止めを使ったりして、紫外線による刺激を防ぎましょう。
○体を洗う際には、刺激の少ない石鹸を使いましょう。
○皮膚症状の程度が軽ければ、症状が悪化しないように治療を行ったり、場合によってはアビタックスの量を減らしたり、一時的に治療をお休みすることで治療を継続することができます。そのため、上記のような症状を少しでも感じたら、担当医師や看護師、薬剤師などの医療スタッフに相談してください。

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日後に減少します。

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

- 感染症：37.5℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など
- 貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など
- 出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。
○血が止まりにくくなることがありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

★悪心・嘔吐および食欲不振

発生時期 薬剤投与日～5日目位まで

※まれに、以前の化学療法後の嘔吐の体験が影響し、点滴の数日前からおこるものがあります。

症状 食欲が落ちたり、味覚の変化、においに敏感になったり、胃が重たく感じたりします。ときどき吐くこともあります。

対処法 ○治療の前に吐き気止めの注射を行います。症状によっては吐き気止めの内服薬を服用することもあります。
○脱水をおこさないように水分はこまめにとるように心がけましょう。
○吐き気があるときは無理して食べる必要はありません。口当たりのよいものを少量ずつとりましょう。
○吐き気が強く食事できないときは、栄養や水分を点滴で補給することもあります。
○事前に吐き気止めの薬を点滴あるいは服用します。症状がでた後に、吐き気止めの薬を追加することもできます。

★悪心・嘔吐および食欲不振

★脱毛（軽度）

発生時期 ○治療開始日から3週間目頃から始まりますが、治療が終われば必ず生えてきます。

症状 ○全て抜けてしまうのではなく、髪が薄くなることが多いです。

対処法 ○治療中は頭皮も敏感になっていますので、シャンプーやブラッシングの回数を減らしたり、長時間のドライヤーは避けてください。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★下痢

発生時期 薬剤投与日から数日～数週間後に起こります。

症状 水のような便が夜間をとわず頻回に出ます。ときどきおなかがしぶるように痛くなります。

対処法 ○感染症を防ぐ為、排便後は肛門の周りを清潔に保ちましょう。
○周期的な腹痛、1日5回以上（もしくは通常よりも3回以上多い排便）の排便、夜中の下痢便が起こった場合はお知らせ下さい。
○症状に応じて・整腸剤や下痢止めを服用します。
○下痢がひどくなり、液状・粘液状の便が続く時、あるいは血便や強い腹痛があるときはお知らせください。
○食事は温かく消化吸収のよいものを取りましょう。
○下痢によって水分が失われるので、スポーツドリンクなどで水分をたくさんとりましょう。
○下痢の時は、辛い食べ物、冷たい食べ物、炭酸飲料やコヒーも避けましょう。

★過敏反応（インフュージョンリアクション）

発生時期 薬剤投与中～投与開始後24時間以内

症状 発熱、疼痛、ほてり、頭痛、頻脈・心悸亢進（心拍数が著明に亢進すること）、血管浮腫（舌・喉のはれとして認められることがあります）、咳・呼吸困難、そう痒（かゆみ）、吐き気、虚脱感、悪寒（震え）、発疹などがあらわれることがあります。

対処法 ○インフュージョンリアクションのおそれがある場合は薬剤の投与前に予防薬を投与します。
○点滴中、点滴後（特に24時間以内）においても気になる症状が現れた場合には、すぐに医師や看護師・薬剤師に知らせてください。

★間質性肺炎

発生時期 薬剤投与後数日～数週間

症状 発熱、から咳、呼吸困難（息苦しい）、頭痛、倦怠感などの風邪のような症状があらわれることがあります。

対処法 ○起きる頻度はまれですが、症状の軽いうち（風邪のような症状）から治療する必要があります。

★心毒性（心筋障害、心不全）

発生時期 薬剤投与日から1～数ヵ月後以内
※まれにそれ以降にも起こる場合があります。

症状 手や足首のむくみ、息切れ、動悸、胸の痛みなどの症状があらわれることがあります。

対処法 ○上記の症状が出た時はすぐに医師に連絡し、指示に従ってください。

その他の副作用

★その他

症 状 倦怠感、口内炎、聴覚障害、味覚障害、手足の炎症、色素沈着、眼の角膜炎（かゆみ、充血など）など

対 処 法 ○必要に応じて対症療法を行います。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院（薬剤部）

